

東濃社会教育だより

-学校・家庭・地域連携事業編-



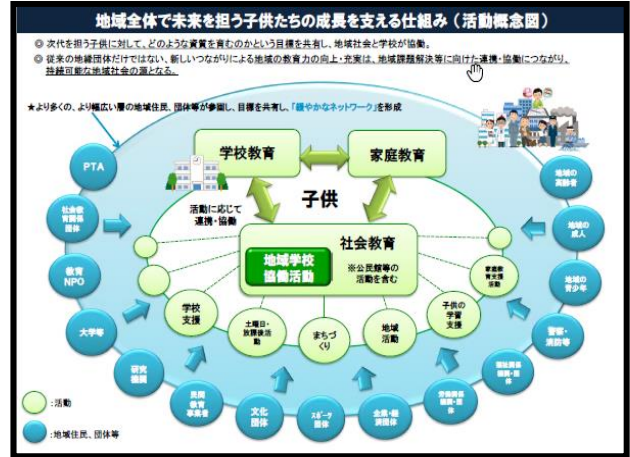
恵那県事務所
振興防災課 振興防災係
社会教育担当:長瀬
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 208

地域学校協働活動とは

「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体、機関等の幅広い参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動です。

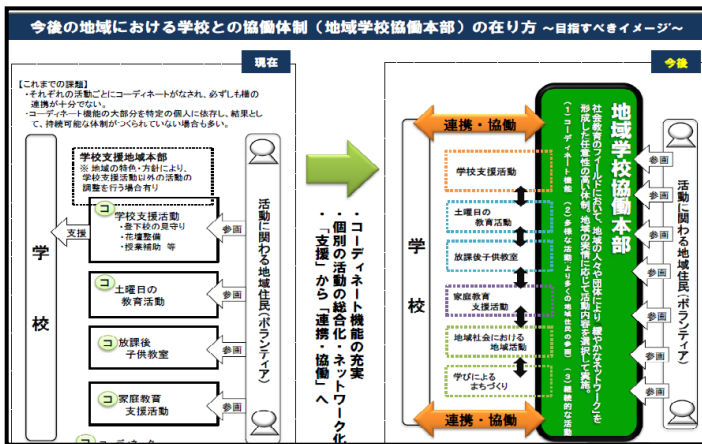
「学校支援地域本部」などの従来の地域の取組とは違い、地域が学校・子供たちを応援・支援するという一方向の関係だけではなく、子供の成長を軸として、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、互いに膝を突き合わせて、意見を出し合い、学び合う中で、地域の将来を担う人材の育成を図ります。地域住民のつながりを深めることにより、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進し、地域の創生につながっていくことが期待されます。

【文部科学省のHPより】



今後の地域における学校との協働体制の在り方

東濃地区で行われている地域学校協働活動は「土曜日の教育活動（多治見市、中津川市）」、「放課後子ども教室（恵那市、中津川市）」、「地域未来塾（恵那市）」、「家庭教育支援活動（中津川市）」です。市独自の予算を使って、これらの事業に類似した活動を行っている市もあります。学校運営協議会（コミュニティスクール）の努力義務化や地域学校協働本部の推進など、学校と地域が手を取り合って協働していく活動がこれから進んでいくことが予想されます。今年度は、社会教育主事等研修・地域コーディネーター研修において教育評論家である瀬尾氏、東濃地区社会教育振興協議会研修会においては、津島市地域学校協働本部統括コーディネーターの梶村氏を招いて、学校と地域の連携への第一歩に向けた研修を行っています。





子育てマスター養成講座

- 第1回 開講式・オリエンテーション
- 第2回 子育て支援の現場から
- 第3回 集団託児の意義・交流会
- 第4回 望ましいサポーターとは
- 第5回 救急救命法講習
- 第6回 特別講座 おんぶとわらべうた
- 第7回 子どもの心の発達とその対応
- 第8回 家庭教育支援・子育て支援ツール紹介
- 第9回 講座の企画運営のポイント
- 第10・11回 実習準備・各種実習
- 第12回 閉講式 子育て講話

10月3日に、中津川市が、家庭教育支援活動として、「子育てマスター養成講座」をスタートさせました。

中津川市では、平成20年より家庭教育支援の充実を目指し、親への子育てに関する助言や子育て交流事業の企画・運営をはじめ、子育てネットワークの推進などを担う人材の養成を行うことを目的とした「子育てサポーター養成講座」を行っていました。

今年度からは、平成28年度岐阜県子育てマスター認定制度廃止に伴い、中津川市独自の「子育てマスター」の認定制度の確立を目指して、養成講座をスタートさせることとなりました。

開講式では、これまで、乳幼児学級や小中学校の家庭教育学級等で講演を数多くされている子育て親育ちのスペシャリスト郷田恵美先生(中津川市社会教育委員)が「子育てで大切なこと」をテーマに講演をされました。

講演では、「子育ての達人とは」「変わらない子どもの育ち方」や、「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」について話をされました。参加者は、子育てにおいて「1. 体を使うことが大好き、2. 自分で考えること大好き、3. 人とかかわること大好き」な子を育てることが大切であることを学び、子育てマスターの取得に向け意欲を高めていました。

社会教育・家庭教育関係行政担当者研修会を開催しました。

10月2日に、児童養護施設 麦の穂学園 横川聖園長を招いて、「社会教育・家庭教育のあり方について学ぶ」をテーマに話をいただきました。今までの経験をもとにしたお話で、家庭教育や社会教育の大切さがよく伝わりました。また、2部では、今年度、社会教育指導主事講習を受講された、土岐市の水野慎矢氏と中津川市の加藤直人氏の報告会を行い、「多文化共生と社会教育」や「学校づくりと社会教育」の報告と公民館による地域づくりの大切さ等を説明していただきました。



【参加者の感想より】

- ・私たちの人間関係にも大いに役立つ話でした。現状を知ることは、とても有意義。「ブレーキがきく車でない、スピードは出せない」は名言。信頼関係を育むために心に留めたい話でした。
- ・親子の情愛は親子でなければ自然とあるものではなく、築き合うものだと思います。人との関係、地域との関係も同様、楽しく明るくユーモアをもって存在を認めることを心掛けたい。
- ・まちづくりは人づくり、そして、子ども育てと切り離せないことを改めて考えさせられました。「子どもが親以外の人、学校の先生以外の人に褒められて、自己肯定感を得る幅が広がる。」という声から、社会教育のもつ働きの重大さを思います。